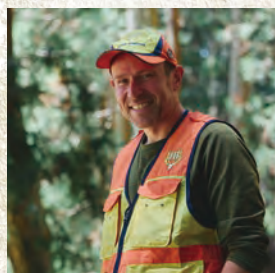




**Message to
20 years
Takashima City**

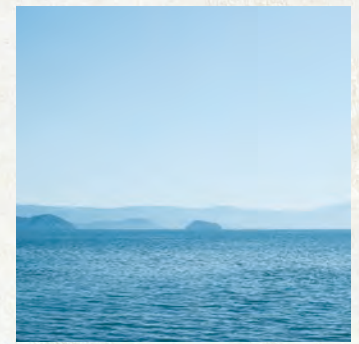


—— 愛と誇りにあふれたメッセージ集 ——

ハタチの高島市へ

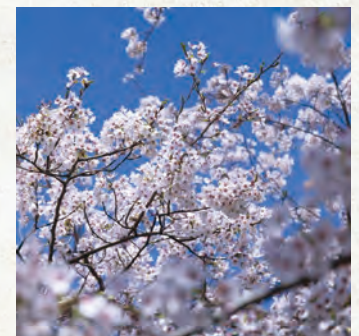
高島市制施行20周年記念誌


高島市
Takashima City



**Message to
20 years
Takashima City**

このまちがすき
明日へとつなげる
たかしま 20



高島市制施行20周年記念誌
ハタチの高島市へ

令和6年10月発行
高島市役所
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑 565 番地
TEL 0740-25-8000 (代) FAX 0740-25-8101
<https://www.city.takashima.lg.jp>



ハタチは、可能性。

祝 ハタチは、はじまり。

高島市制施行20周年記念誌 CONTENTS

「ハタチの高島市」に暮らす人々 発展を担う独自の産業	3
福祉という助け合い	7
このまちに育つ中学生たち	9
未来へつなぐ伝統産業	11
高島を選んだ、移住者のいま	13
楽しむ、支える、子育て	15
住民自治協議会の取り組み	17
全国に、世界に誇る自然環境	19
進化を続ける文化財	21
文化を継承する伝統祭	22
ハタチの成長記録	
市民憲章	23
主な出来事編	25
データ編	29

2005年の元日、5町1村の合併によって誕生した高島市。琵琶湖と森林に囲まれた豊かな自然環境、地域性を生かした独自の産業、古くから伝わる伝統など、さまざまな特色をもつ市として発展してきました。さらに近年は移住者が増え、それだけ多様な価値観やキャリアをもつ人が高島に集まっています。長い歴史が育んだ文化、伝統習慣に、新たな価値が混じり合い、これからの時代を切り開く「多様性」という力が育まれています。

そんな高島の「いま」を伝えるため、市制施行20周年記念誌では、高島市を象徴する特色をテーマに関係する住民の皆さんへインタビューを実施。それぞれの思いから、ハタチの高島市がさらに成長していく可能性を感じてください。

高島市は20歳。
積み重ねてきたのは、
さまざまな人とともに生きる
「多様性」という特色。



憧れの漁師となり、
琵琶湖の漁業を
守る力になりたい。



海津漁業協同組合見習い漁師
田村 志帆さん

幼い頃から淡水魚に興味があり、次第に琵琶湖の漁師に憧れるようになりました。大学を卒業後、実習先だった海津漁業協同組合で働き始め、今は親方の元で修行中です。水温や風向きで漁獲量が変わる漁は学ぶことが多く大変ですが、家でも漁具の準備を行い、一日も早く一人前になれるよう努力しています。伝統ある漁業を将来につなげるため、今後は子ども向けの体験漁業を開催するなど、漁の担い手を増やすための取り組みにも積極的に関わっていきます。



夏のビワマス漁に向けた刺し網や、うなぎの延縄(はえなわ)漁用の網を手づくりし、大切な仕事道具の手入れに勤む毎日。

市の7割を占める
大切な森を任されている、
責任と誇りを胸に。



高島市森林組合主任
俣野 長之さん

組合員の出資をもとに森の手入れを行うのが森林組合。私は現在、伐採などに利用する木材搬出用の森林作業道を開設しています。高島の森は、市の面積の約7割を占めています。間伐によって、立木が密集しないように手入れし、健全な成長を促す必要があります。森を適切に保つことは、高島の多様な生態系を守り、土砂崩れなどの災害から人々を守ることに繋がります。「この森を自分が守っている」という責任と誇りを胸に、日々の業務に取り組んでいます。



作業道の開設では重機で不要な木を取り除く。必要以上に除去すると、土砂崩れや水害を招きやすいため繊細な作業が求められる。

FORESTRY

02 びわ湖の水源を守る
森づくり。

近畿圏の約1,450万人がその恵みを受用するほど広大な琵琶湖。実はその水の約3分の1は高島市を水源としています。そこで重要になるのが、水源の森づくりです。森林公園「くつきの森」で森林環境学習「やまのこ」事業や企業研修の受け入れのほか、環境への負荷が少ない持続可能な林業に取り組んでいます。



やまのこ事業 薪割り体験



やまのこ事業 森の調査体験

FISHERY

01 伝統的漁法に新たな風を。

琵琶湖へ注ぐ水の流れとともに、農山漁村を形成してきた高島市。生活と密接に関わる農業や漁業の文化を大切にしてきたことで、「えり漁」や「やな漁」などの伝統的漁法が今日に受け継がれています。近年は若手の新規漁業就業者も加わり新たな風が吹き、漁師直売など生産者と消費者とのつながりを深める取り組みが展開されています。



伝統的漁法「やな漁」

TAKASHIMA
REAL
高島のいま

守り育まれる
高島の産業



可能性を蒔く。

地域の活性化と
特産品の開発を目指し
オリーブに賭ける。



南深清水FF倶楽部代表
桂田隆司さん

定年退職後、高島への恩返しのために農業を始めました。一から学び直し、経験者を募って、耕作放棄地の活用を目指した南深清水FF倶楽部を設立。この土地は水はけが良く、果樹の栽培に適していることから、新たな特産品とすべくオリーブ栽培に挑戦しています。現在は大学生とも協力し、柔軟な発想に刺激を受けながらSNSで生育情報を発信中です。若い世代に農業の面白さを伝えるとともに、オリーブを柿に並ぶ特産品に育て上げたいきます。



5年かけて、ようやく収穫できるようになるまで成長。2023年の秋の柿祭りでオリーブオイルを市民の方に初披露。

市を代表する
メタセコイア並木とともに
新たな観光の魅力を開拓。



農業公園マキノビックランド
支配人
桂田 巨さん

たくさんさんの観光客が訪れる、市を代表するメタセコイア並木。私は農業公園の支配人として、メタセコイア並木の保存活動にも関わっています。何度訪れても楽しいと思える場所にするために、カフェの改装や旬の果物狩りができる果樹園、グランピング施設と新しい試みに取り組んできました。最近では引退競走馬と自然、地域が共生する観光養老牧場もスタート。いつ来ても、高島ならではの自然の美しさを感じられる観光スポットとして今後も進化を続けていきます。



農園に出向き、果物のようすをスタッフからヒアリング。果物狩りの開催時期などについて日々調整を行う。

TAKASHIMA
REAL
高島のいま

人々をつなぐ
自然資源



オリーブ苗木の定植

01 積雪の多い環境での新たな挑戦！
オリーブ栽培で広がる農業の可能性。

地中海のイメージが強いオリーブですが、雨や雪の多い高島でも元気に育ち、オリーブオイルなどの商品を開発中。新たな特産品化と農業の若年層化につながるこの取り組みに期待が寄せられています。



02 農業の未来を担う、
若手農業者団体「高島青年農業者クラブ」。

20～30代の若手中心の「高島青年農業者クラブ」では小学校での食育活動や、高校生、大学生たちと連携したマルシェへの出店などを実施。農業の魅力を知ってもらい、担い手の増加を目指しています。



03 紅葉だけが魅力じゃない。
いつでも絶景！メタセコイア。

メタセコイア並木は、全国屈指の紅葉の有名スポット。人気WEBサイトで毎年発表される「紅葉名所ランキング」で全国1位に度々ランクイン。四季折々に人々を魅了し、国内で最も注目を集める観光地にまで成長しました。



04 来る人にも、住む人にも
魅力を伝える、観光ビジョン策定。

2024年3月に「～暮らす人・訪れる人が友(とも)につなぐ たかしま～」をコンセプトに「たかしま観光ビジョン」を策定。人々が高島の豊かな観光資源の価値を共有し、その魅力に心を寄せる友人や仲間を増やし、一緒になってたかしまを未来につないでいくことを目指しています。



暮らしに寄り添う。



握力が弱まった方には、自転車のハンドルグリップにコルクを入れたスプーンをつくるなど、使う材料にも工夫を取り入れた自助具を製作。

私たちは、理学・作業療法士や保健師と連携し、利用者に合った自助具を材料費のみで製作するボランティア活動を行っています。例えば脳梗塞等で腕に障がいのある方には、状態に応じて食事ができる直角のスプーンを提供しています。ご自宅に訪問してスロープを製作することもあります。高島市は高齢化率が高く、それにもない日々の困りごとを感じている方が多くおられます。皆さんの暮らしに寄り添い、自立を助けることに貢献していきます。



ほへみ工房
日置 裕さん・
三矢 早美さん

高齢者や障がいの者の自立を促し、より良い生活を支える。



備えを伝える。



人気を呼び、小豆島など遠方に出向いて活動をする。漫才や劇以外にも笑いを交えつつ防災・減災に関する講演を行う。

琵琶湖西岸断層帯をもつ高島は地震発生の可能性が考えられることから、いざという時、一人ひとりが命を守るよう、日頃の「備えと構え」の必要性を伝える出前講座を24年間続けてきました。難しい話をわかりやすくするために、漫才や腹話術などを交えつつ防災・減災に対する意識啓発を促す方法を独自に築いてきました。災害に備える方法や、避難生活に役立つ知恵と工夫など、万一の際に「知ってて良かった」と感じてもらえる情報を今後もお伝えしていきます。



たかしま災害支援ボランティアネットワークなます代表
太田 直子さん

防災や減災という大切なことこそ、楽しく笑いを交えて発信。

WELFARE

03 高島市オリジナル健康体操「高島あしたの体操」が拡大中。

2013年度に「高島あしたの体操」のDVDを作成し、2021年度からは動画配信もスタート。地域でのサロンや介護事業所等で、筋力アップ・フレイル予防に活用いただいています。



WELFARE

02 健康寿命を延伸！地域の健康づくりを推進。

皆さんが、いつまでも元気でいきいきと暮らすことができるよう、子どもから高齢者までの健康づくりに取り組んでいます。地域の健康推進員が中心となり、食事や運動、健診・がん検診の受診啓発を行うなど、健康づくりを展開中です。



小学校での減塩教室



こども園での活動

WELFARE

01 障がいのある人の社会参加を応援中！

障がいのある人のスポーツや芸術活動を通した社会参加を応援。障がいのある人で構成されるソフトボールチームや、ボウリング、水泳などで活躍されています。また、毎年開催される「KOSEI輝く芸術祭」では、書道や絵画の展示、合唱やダンスの発表など、障がいの有無に関わらず参加できる共生社会の実現に取り組んでいます。



チャレンジたかしま交流試合



KOSEI輝く芸術祭

TAKASHIMA
REAL
高島のいま

健康と暮らしを支える共生社会

あしたを夢みる。

両親のような大人になりたいくて
生徒会副会長に立候補。

湖西中学校3年——加藤和輝さん

両親のように、多くの人から慕われる
人になりたいと思い、生徒会副会長に立
候補しました。笑顔を絶やさず、責任を
全うする、周りから尊敬される大人にな
りたいです。

指揮者を経験し、仲間の力を
引き出す楽しさを知った。

高島学園8年——唐崎天晴さん

昨年の合唱祭で指揮をとりました。練
習では各パートと念入りに話し合い、い
ざ本番。クラス一体となったハーモニー
を引き出したことは、最高の思い出です。

世界で活躍するため、
もっと英語力を高めたい。

安曇川中学校3年——青木咲らっさん

全国大会にも出場した、英語の弁論
に力を入れています。将来はさまざま
な人とコミュニケーションをとり、世界
中の人の役に立てる仕事に就きたいと
考えています。

自分の脚本で、みんなが
楽しんでもくれた最高の思い出。

今津中学校3年——森仁一朗さん

昨年、文化祭の劇の脚本と演者を担
当しました。各演者が個性豊かなキャラ
クターを全力で表現し、観客にも楽し
んでもらえた、あの時間は忘れられな
い思い出です。

奥深い魚の世界に、
どっぷりハマっています。

朽木中学校1年——石田小晴さん

琵琶湖博物館を訪れたことをきっか
けに、将来は水族館の飼育員になりたい
と思うようになりました。色や形、すみ
かなどさまざまな魚のことをもっと詳
しく知りたいです。

湖西線の思い出づくりを
お手伝いできるJR職員に。

マキノ中学校3年——里田大空さん

車窓から山も湖も眺められるJR湖
西線が好きです。将来はJRで働き、地
元の方や観光客など、皆さんから慕っ
てもらえる職員になりたいです。

EDUCATION

03 ICTを活用した 学び方改革を推進。

進展する情報化社会で子どもたちが
不自由なく過ごしていけるよう、
すべての小中学校でICTを活用。
1人1台端末を効果的に活用し、学
び方改革を進めています。



教職員ICT活用実践交流会



タブレット端末を活用した学び

EDUCATION

02 地域とともにある 学校づくりを目指して。

すべての小中学校で、保護者や
地域の皆様のご理解とご支援
を得て、学校と地域が一体となっ
た教育活動を展開し、地域とと
もにある学校づくりに取り組ん
でいます。



学校運営協議会での熟議

EDUCATION

01 先生同士のネットワークを広げ、 小中一貫教育を推進。

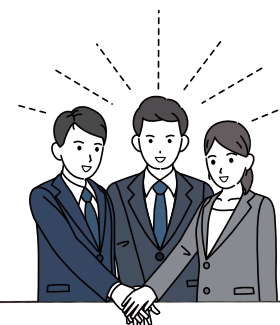
小中学校合わせて9年間の学びの連続性を
大切に考え、すべての中学校区で、小中学校
の教職員が互いに協力。地域や子どもたち
の実態に応じた特色ある小中一貫教育に
取り組んでいます。



小中学校での異年齢交流

TAKASHIMA
REAL
高島のいま

未来を育てる
高島の教育





未来を照らす。

百年続く、植物由来の
和ろうそくづくりで
新たな歴史を刻む。



和ろうそく職人 有限会社大興
大西明弘さん・巧さん

高島の伝統工芸品である和ろうそくは、かつて滋賀の各地でつくられていましたが、今はつくり手も私たちだけになりました。収穫量の少ない檀（はぜ）の実を使う製法を守りつつ、新商品の開発や販路拡大にも努めてきました。香りや煙の少なさ、安定した炎のゆらめきが好まれ、飲食店での採用や、再利用できる点が評価されて海外にもお客さまが広がっています。今後は和ろうそくの魅力を伝える場づくりを行い、伝統文化に触れる機会を増やしていきます。



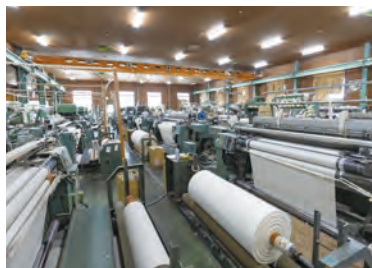
四代目の新たな取り組みとして、和ろうそくの色や形を調整し、家庭向けのインテリア商品を開発。

チャレンジ精神と
徹底した品質の追求で
紡いできた歴史。



駒田織布株式会社
代表取締役
駒田雄大さん

雨の多い高島は材料の綿花がよく育ち、江戸時代から帆布を特産品としてきました。かつて帆布は船の帆として使われ、現在は経年によるヴィンテージ品のような風合いが好まれてバッグやカーテンなど多用途に活躍。私たちの帆布も靴屋やインテリアメーカーなどで商品化されています。時代の変化に対応するため、品質管理の難しい先染めや綿以外の生産など他企業とは異なる事業にも挑戦。帆布の名産地、高島の企業として帆布の可能性をさらに広げていきます。



2号から11号まで厚さの異なる帆布を生産。2号の帆布を織れる企業は数少なく、駒田織布の強みのひとつ。

TAKASHIMA
REAL

高島のいま

01 匠の技を受け継ぎ、
高島の伝統を、未来へ。

和ろうそくや帆布をはじめ、高島市には滋賀県の伝統工芸品にも名を連ね、世界に誇る伝統産業が多くあります。職人たちは技術を受け継ぎ、時代の変化に合わせた商品の開発にも積極的に取り組んでいます。

高島ちぢみ

風通しの良さやデザイン性から、衣料品以外の分野にも広がっています。



高島扇骨

良質な竹からつくる高島扇骨。その工程のほとんどが職人の手作業です。



雲平筆

400年以上の歴史をもつ巻筆の特長は弾力で、多くの書道家に愛されています。



未来に絆ぐ
伝統産業

TRADITIONAL INDUSTRIES

02 ヴォーリズ建築で、
お気に入りの一品に出会う一日。

クラシックなヴォーリズ今津郵便局の建物で、若手作家たちが紡ぎ出す上質なクラフトや作品に触れることができるイベントが、2022年から年2回のペースで開催されています。



ヴォーリズ今津郵便局

TRADITIONAL INDUSTRIES

03 日本酒、醤油、キムチ…。
“発酵するまち”の名物。

自然豊かな高島市は年間を通じて湿度が高く、発酵に適した風土です。市内には5つの酒蔵、鮎ずしの老舗、県下唯一の酢の醸造所があるほか、醤油、キムチ、ヨーグルトなど、多様な発酵食品がつくられています。





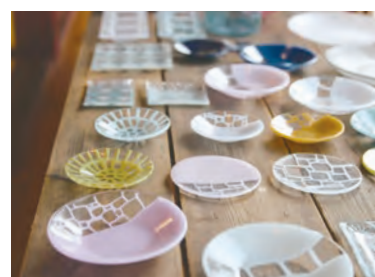
光をカタチに。

美しい自然にあふれる
この土地の魅力を、
ガラス作品に込めて。



ガラス工芸職人
中田 光彦（サブロウ）さん・
祐季さんご家族

私はガラス工芸職人として富山で修行していたのですが、大津の実家に帰省するたびに、道中の高島から見る琵琶湖の雄大さに心を奪われていました。そして2年前、憧れだったこの地へ家族とともに移住。家の裏手に連なる山々や輝く湖面、一面に広がる田畑といった自然が、製作の大きなモチベーションになっています。今は自宅兼工房で、器の販売をはじめ、ガラス体験も実施しています。さまざまな家庭の暮らしを、高島の自然を生かした私のガラス工芸で彩りたいと思っています。



繊細な技法でつくられるガラス工芸ながら、「実用品として毎日使ってもらう」ことで暮らしに溶け込んでいくのが中田さんの願い。



山と生きる。

自然に惹かれて
移住した朽木で感じた、
人の温もり。

ハンター
エヴァラード・マーク・
エドウィンさん

緑の生い茂る山々に魅了されて東近江市から朽木へと移り、狩猟を行い生活しています。鹿や猪用の罠を山に張り、多いときには月に15頭以上捕獲します。また、近隣の方は夕食に招待してくれるなど優しく、家族が穏やかに過ごせており、朽木を選んで良かったと強く思います。



自然を魅せる。

琵琶湖から高島を
見るたびに感じる
山々と湖の雄大さ。

カヤックインストラクター
大瀬 志郎さん

大学卒業後に国内外でカヤックインストラクターとしての訓練を積んだ後、地元滋賀にUターン。山と湖が近く、四季の自然を一箇所で楽しめるマキノで活動を始めました。波に揺られ、湖面の高さから見る非日常の世界を多くの方に味わってほしいと思います。

TAKASHIMA
REAL
高島のいま

暮らしを手厚く
移住支援

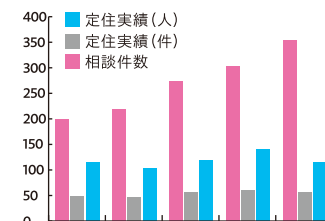


01 住まいからお仕事まで。 コンシェルジュが移住相談を受付。

市民協働課 定住推進室では、定住相談窓口を設置し、移住・定住コンシェルジュが、住まいや仕事など移住に関する相談に対応。移住やUターンを検討される皆さんのサポーターとして日々支援にあたっています。

02 住みよいまち、高島には 移住者が増加中。

年々、高島市への移住を検討する方が増加中です。定住相談窓口への移住相談は年間約300件あり、毎年40～60件（80～140人）の方が高島市へ移住されています。市内には多くの先輩移住者がいます。



03 移住専用のホームページ 「高島で暮らそう。」を開設。

移住を検討中の方に向け、市内のさまざまなイベントや高島市空き家紹介システムに登録中の物件などの情報を専用ホームページに掲載。移住に関する小冊子も作成し、市内の公共施設、観光施設などで配布しています。



「高島で暮らそう。」
ホームページは
コチラ！

04 移住や住宅リフォームに関する 補助金を給付。

高島市への移住・Uターンをする方や、市内の賃貸住宅や実家に居住する若者が行うリフォーム工事を対象に補助金を給付。引っ越しや住まいの準備などにかかる費用の削減になると好評いただいています。





高島と育てる。

孤独を感じやすい子育て。
だからこそ、
つながりを大切に。

藤木 香澄さん親子

私は高島市の子育てサークルの代表を務めています。かつて私自身、近隣のママ・パパとつながり、子育ての悩みを共有し、孤独を軽減できる場に出会い、救われました。今度は私が、仲間とともに活動内容を発信することで、多くの方にサークルについて知ってもらい、高島で共に子育てに向き合いたい。サークルで得た安心感や楽しさを共有したいと思っています。

高島だから実現できた。
自然の中での
開放的な子育て。

松井 香苗さん親子

子育ての中で感じているのは自然の豊かさ。湖畔での水遊びやたき火、近所で草花と触れ合いながらの散歩など、自然の中でのびのび子どもを育てたいという願いがかないました。また、市が運営することも園を遊び場として利用できるため、園の先生に子育ての相談に乗ってもらえるほか、親同士で情報を交換できて助かっています。

「想像以上に制度が充実
しているから安心して」と
過去の自分に伝えたい。

中田 惟さん親子

結婚を機に高島へ引っ越してきました。最初は支援や教育の制度が整っていないのか不安でしたが、それはとりこし苦労でした。産休や育休期間中の補助金といった在宅支援や、保育料が無償といった制度面のおかげで安心して暮らせています。また保育園の開放など、他のママやパパと交流の場があり、安心して子育てができる環境に満足しています。

地域ぐるみの
丁寧なサポートで、
日々安心を感じる。

一井 佳菜さん親子

高島市の魅力は子育てにおける丁寧なサポートです。特に助かるのは電話での支援で、高島市の保健師の方から定期的に電話をいただき、子育ての悩みを相談できることに感謝しています。また、小児科の先生を紹介していただいてハイハイができるようにケアしてもらえたこともあり、地域全体で子育てを支えてもっています。

TAKASHIMA
REAL
高島のいま

家族に寄り添う
子育て支援

CHILD CARE 01 保育料を完全無償化し、
子育て世帯の経済的負担を軽減。

2019年10月から国の「幼児教育・保育の無償化」がスタートしましたが、市ではさらに0～2歳児の住民税課税世帯も含め「保育料完全無償化」を実施。子育て世代に住みよい地域を目指しています。



CHILD CARE 02 地域の情報がすぐわかる
子育て応援アプリを提供。

子どもの成長を記録でき、地域の子育て情報が簡単に手に入る子育て応援アプリ「はぐとナビたかしま(母子モ)」では、イベント情報や妊娠から育児まで幅広い子育て情報を紹介。妊娠中の記録や健診結果、予防接種の管理など母子手帳と合わせて活用できます。



CHILD CARE 03 子ども・若者に関するあらゆる悩みに
“相談モール化”でサポート！

こども若者応援ベース「みらくる」では、妊娠期から40歳未満の若者まで幅広い年代を対象に支援。さまざまな相談機関を集約し、子育てに関する不安を解消できる場として、隣接の児童発達支援センター「エール」とともに、子どもの健やかな成長をサポートしています。



CHILD CARE 04 日中家庭で子育てする保護者を
在宅育児支援事業給付金で応援。

子育て世帯に安心して在宅で育児し、充実した子育て期を過ごしてほしい。その思いから、1歳児または2歳児の未就園児を日中家庭で子育てしている保護者に対し、月額3万円を支給しています。





高島市の魅力を今津から
発信し、賑わいを創造する。

高島市今津地域住民自治協議会
山口 知之さん

今津は百年以上歌い継がれてきた琵琶湖周航の歌が誕生したまちです。また、自然や食、水に恵まれるとともに、古くから交通の要衝として栄えてきた歴史があります。この今津の魅力を地域の皆さんと再認識し、広く発信しながら行政とも協働して交通インフラの整備等に取り組むことによって、人や物が行き交う、賑わいのあるまちづくりを目指します。

子どもたちの未来のために
人が集まる仕組みをつくる。

朽木地域住みよいまちづくり推進協議会
上山 基継さん

子どもたちが成長したときに、故郷が変わらずあり続けることが最重要だと思っています。人口減少が続く朽木存続のためには、関係人口の拡大が欠かせません。すでに地域外から千人以上集まる米まつりや、年間8千人以上訪れる鮎釣りなどの地域の財産を守り、生かしながら、朽木への関心を広げ、地域の魅力のアピールなどを通じ、誘致につながればと考えています。



地域の人々の楽しみを、
マキノを支える力に変える。

マキノまちづくり協議会
谷口 浩志さん

自然豊かで移住者が多いマキノ。しかし、農業や林業などの後継者不足に陥っている集落もあり、存続のために今後は住民同士が協働する施策が必要だと考えています。例えば園芸や家庭菜園に興味のある方は草刈り機の使い方を教わり、地域の美化活動に参加するというように、趣味の延長のような参画しやすい仕組みづくりに取り組んでいます。

地域と歩む。



多様な個性を発揮できる
みんなに居心地の良い町に。

安曇川地域住民自治協議会
梅村 頼子さん

この小さな町にも、障がいのある方や外国人技術者など多様な人が暮らしています。そこで、「普段何を楽しき、何に苦労しているのか、どんな工夫や助けがあれば克服できるのか」などを、大人も子どもと一緒に話し合う交流会を開催。子どもの頃から多様性を実感し、すべての人が過ごしやすい「地元」であり続けるために、気づきや学びのある町を目指し続けます。



小さな解決の積み重ねが、
よりよい高島の未来に。

高島地域住民自治協議会
加藤 幸江さん

高島地域では、主に自治会や地域住民から寄せられる、「地域の役員になったけどどうしたらいい」「文化祭の企画に困っている」といった個々の悩みに答えています。こうした活動から日々の不安を解消し、住みやすさにつながると考えています。ときには地域住民にアンケートをとり、人々の声を集めることで、今後の施策につなげています。

子どもたちに高島は誇れる
地域だと思ってもらいたい。

新旭地域住民自治協議会
十塚 悠さん

琵琶湖畔に広がる田園と小麦畑の美しさに惹かれて移住し、住民自治協議会に参加しました。新旭は町中を巡る清流とともに暮らす、自然と融合した文化が残っています。故郷の魅力を子どもたちに感じてもらうために、小中学生とともにヨシ刈りなどのボランティアや多世代交流ができる場づくりを行い、子どもが主体となって地域と関わる活動を広げていきます。

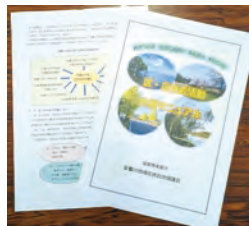


TAKASHIMA
REAL
高島のいま

地域を導く
自治組織

01 それぞれの地域が抱える課題を解決する 住民自治協議会。

区や自治会で担うには困難な課題、行政サービスだけでは解決しづらい地域独自の課題。それらの解決のために生まれたのが住民自治協議会です。地域のさまざまな団体が協働して活動に取り組める新たな体制として各中学校区に設置しています。



区・自治会活動支援マニュアル



地域団体との協働による環境保全活動

02 区や自治会の持続的な発展を目指す 区長連絡会。

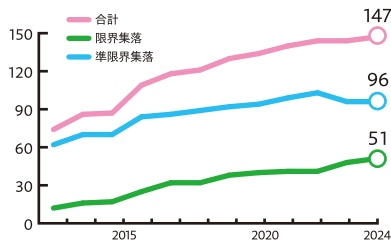
区や自治会が持続的に発展していくためには、時勢に見合った組織や事業の見直し、事業の連携などを行う必要があります。区長連絡会は、中学校区内のすべての区長・自治会長で組織し、情報共有や、研修、自治会同士の事業連携を検討する場として開催しています。



区長連絡会

03 少子高齢化が進む、 区・自治会の現状。

現在、市内には202の区や自治会が組織されています。このうち限界集落が51地域、準限界集落は96地域となっており、市内の約7割が限界集落または準限界集落に。現在、住民自治協議会をはじめとしたさまざまな団体が課題の解決に取り組んでいます。



限界集落：地域人口の5割以上が65歳以上の地域
準限界集落：地域人口の5割以上が55歳以上の地域
202の区や自治会：「みんなで創るまちづくり交付金」の交付団体の数



誇りを新しく。

棚田、電車、琵琶湖を望む
唯一無二の眺めを
守り、育てていく。

鵜川棚田保存会 会長
山田 善嗣さん

室町時代からの歴史を誇る鵜川の棚田は、JR湖西線と琵琶湖を一望できる唯一無二の景観が自慢です。その一方で、放棄地の増加などを理由に「日本の棚田百選」の選定から外れました。この悔しさから再生を誓い、2016年本会を設立。オーナー制度をはじめ、近年は果樹栽培や貸し農園も行うなど棚田を積極活用。市外、県外からの訪問者も増えつつあります。今後も仲間を増やし、地域活性化の原動力となるよう、その役割を果たし、地域の誇りとしての棚田を守っていきます。



基本的な田んぼの手入れは保存会のメンバーが行う。棚田の持続的な保全には、地域・企業ぐるみの協力が欠かせない。

先人たちの思いとともに
未来までマキノの
桜を守り継ぐ。

美しいマキノ・桜守の会 会長
江端 英嗣さん

花のトンネルで有名な海津大崎の桜並木は約90年前に道路開発の過程で植樹され、やがて注目を集めはじめました。約30年前に、桜の保護のため、美しいマキノ・桜守の会を地域住民で結成し、開花前のゴミ拾いや桜の病害を予防する薬の散布を毎年実施。私は四代目の会長として桜を守る未来の担い手たちの育成を使命としています。小学生に地域の桜の歴史を教え、ともに植樹を行う活動を続け、若い世代へと活動をつなげていきます。



樹齢60年を超える老齢の桜と、若い桜の約800本を見比べ、病気になっていないかと丁寧に確認を行う。

TAKASHIMA
REAL
高島のいま

雄大に広がる
自然環境

01 日本の原風景、多面的機能をもつ
高島が誇る棚田。

農産物の生産や供給にとどまらず、美しい景観の形成など多面的機能をもつ棚田は、「日本の原風景」と評価されています。市内には、地域や保存会を中心に維持・管理されている11の棚田があり、中でも「畑の棚田」と「鵜川の棚田」は農林水産省の「つなく棚田遺産」に認定されています。



畑の棚田



鵜川の棚田

02 命を育み、癒しを与える
里山。

高島市の野山は鎮守の森や棚田、古民家が点在し、人と自然の距離の近さを感じられる場所です。水源から流れ出た水は、せせらぎとなって大地を潤し、里山の多様な命を育んでいます。



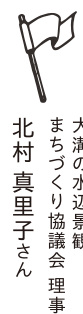
03 長年にわたって人々と共生してきた
豊かな水辺。

大地を巡るせせらぎは、大きな流れとなって人々の生活を潤し、やがて母なる琵琶湖へと注ぎます。琵琶湖のヨシ群落や伝統漁法、川端(かばた)など、古くから地域の人々が水と関わってきた歴史ある暮らしが今もまだ残っています。





日本遺産に選ばれた
大溝地域を、
高島の次なる観光拠点へ。



大溝の水辺景観
まちづくり協議会 理事
北村 真里子さん

16世紀以来、琵琶湖や乙女ヶ池などから水路が張り巡らされた大溝。2015年に、この景観が日本遺産などに認定されたことをきっかけに本協議会が発足し、地域活性化に努めています。かつて武家地と町人地とを仕切っていた総門を活動拠点に、観光案内をはじめ、大溝の湧き水に合わせたオリジナルコーヒーの販売など、地域内外の人が一緒に大溝の魅力を体感できるイベントを多く企画。自然と歴史に恵まれたこの町から、高島を盛り上げていければうれしいです。



老舗鮎寿し店の18代目を務める北村さん。高島・大溝の歴史紹介の一環として、観光客に向けて鮎寿しの説明なども行う。

ハレの日の清々しさを、
未来も分かち合うため。

川上祭 川上庄内年番長
岡本 昭彦さん

幟(のぼり)づくりの傘張り、踊り子の稽古、神輿出しなどさまざまな準備が必要になるお祭りは、皆さんの協力あってのものです。時は移っても私の子ども時代から祭り当日の凜と張り詰めた空気は変わりません。このお祭りの雰囲気を残すために何ができるか、地域全体で考え、工夫を続けていきます。

祭とともに、高島の人の
すばらしさを守りたい。

七川祭 氏子総代会会長
白井 重樹さん

流鏝馬や的練りを行う八百年の歴史をもつ七川祭。神事を大切にし、自然と共存してきた土地だからこそ、互いに敬意を払うことができ、穏やかで誠実さのある高島人が育まれます。私は高島の誇りである「人」を育むためにも、その礎となっている祭を守りたいと考えています。



伝統をつなぐ。

守るために必要な、
変えていく選択。

竹馬祭 佐々木神社神明講総代
栗原 健一さん

装束を着た男子が地域を練り歩く竹馬祭は四百年の歴史があるとされ、その伝統を守り続けてきました。しかし今後は、神事への女人禁制といったしきたりなど、時代に合わせて見直すことも必要だと考えています。伝統と進化を融合させ、この祭をさらに発展させていきます。

子どもたちの晴れ舞台を
支え続ける。

竹馬祭 竹馬祭保存会会長
和田 昭典さん

子どもたちが矢を射る姿、的を持ち練り歩く姿の格好良さは、今も昔も変わりません。この地域ならではの子どもたちの晴れ舞台である竹馬祭の伝統は、これからも存続させたい。移住されたご家族にも参加を呼びかけ、皆さんの記憶に残るお祭りとなるよう、努力を続けます。

TRADITIONAL CULTURE

03 無形民俗文化財に！ 地域で受け継がれる伝統行事。

市内では多くの集落や地域で、伝統的な祭礼や行事が受け継がれています。七川祭、川上祭とともに大溝祭、六斎念仏踊りが滋賀県の選択無形民俗文化財に指定されているほか、竹馬祭、足半祭、遍々杵(ににぎ)神社の渡し祭りの3つの祭礼が市指定無形民俗文化財に指定されています。



大溝祭(宵宮)



六斎念仏踊り



足半祭



遍々杵(ににぎ)神社の渡し祭り

TRADITIONAL CULTURE

02 この美しい水辺の風景が 日本遺産に認定。

日本遺産に認定された「琵琶湖とその水辺景観-折りと暮らしの水遺産」のうち5件の文化財が高島市内に所在。大溝の水辺景観や海津・西浜・知内の水辺景観、針江・霜降の水辺景観の3つの重要文化的景観が含まれています。



海津・西浜・知内の水辺景観

TRADITIONAL CULTURE

01 将軍家との関わりも！？ 朽木の名勝庭園。

朽木地域を流れる安曇川の河岸段丘上には「朽木池の沢庭園」と「旧秀隣寺庭園」という国指定の名勝庭園が存在します。その成立には天皇家や室町将軍家が関わったと伝えられ、都と密接につながる朽木地域の魅力や特徴を表しています。



旧秀隣寺庭園

TAKASHIMA
REAL

高島のいま

伝統ある
文化財

高島市民憲章

私たち高島市民は、びわ湖にそそぐ清らかな水と美しい緑を身近に感じつつ、自然とかかわりあう暮らしを大切にしてきました。また、古くからの歴史に培われた豊かな文化は、私たち市民の誇りでもあります。

私たちは、このかけがえのない財産を次の世代に伝えるとともに、将来を担う子どもたちを大切に育みながら、時代の変化に対応した新しい暮らしを創造していく必要があります。

ふるさとに愛着と誇りが持てる、「誰もが住みたい、住み続けたい高島市」の実現をめざして、市民みんながそれぞれの立場で次のことに取り組みます。

豊かな自然とともに生き 里山の恵みを守ります

歴史と文化を深く知り 新たな学びにつなげます

世代を超えて絆を深め よりよい暮らしに活かします

互いの個性を認めあい 誰もが住みよいまちをつくります

地域の産業を大切に さらなる挑戦をめざします

令和6年10月20日制定

2005(平成17)年～2014(平成26)年

2005(平成17)年

- 5月 高島市誕生記念式典を開催
- 10月 第12回全国山城サミットを開催

2006(平成18)年

- 2月 高島市全域が滋賀県経済振興特別区域「びわ湖・里山観光振興特別区域」に認定
- 2月 「やな」が「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選定

2007(平成19)年

- 3月 高島市総合計画を策定
- 10月 中江藤樹生誕400年祭マスコットキャラクター「よえもん君」が誕生
- 11月 高島市が地方自治法施行60周年記念総務大臣表彰を受賞

2008(平成20)年

- 3月 「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」が重要文化的景観に選定
- 6月 「針江の生水」が「平成の名水百選」に選定

2009(平成21)年

- 5月 たかしま市民協働交流センターを開設

2010(平成22)年

- 3月 「淡海湖」が農林水産省の「ため池百選」に選定
- 4月 高島市立小中一貫教育校「高島学園」を開校
- 8月 「高島市針江・霜降の水辺景観」が重要文化的景観に選定

2011(平成23)年

- 4月 「高島市農産ブランド認証制度」を創設

2012(平成24)年

- 1月 「朽木池の沢庭園」が国の名勝に指定

2013(平成25)年

- 10月 饗庭野演習場で、国内で初めてのオスプレイを使用した日米共同訓練実施

2014(平成26)年

- 4月 高島市内小中一貫教育を本格実施
- 5月 朽木診療所が完成
- 10月 高島市観光物産プラザを開設
- 11月 第1回FAIRY TRAIL びわ湖高島トレイルランニング in くつきを開催

2011.3

朽木東小学校・朽木中学校 屋内運動場竣工

地元学有林から切り出した木材を使用した朽木東小学校・朽木中学校屋内運動場(体育館)が竣工。錦帯橋を模した大屋根が特徴的な木の香りが漂う朽木ならではの体育館になっています。



錦帯橋を模した大屋根が目を引き、希少な体育館。

市民の健康を守り、災害拠点にも。 湖西地方の中核病院、誕生。

2012.5

高島市民病院が開院

地震に強い免震構造を備えるなど、災害拠点病院としての機能を強化した高島市民病院が開院しました。



さらなる発展を目指して。 全国の発酵食品が高島市に集結。

2013.12

全国発酵食品サミットinたかしま

長い歴史の中で発酵食文化が育まれてきた地域。発酵に関するシンポジウムや発酵食品の物産展など全国発酵食品サミットinたかしまを開催。全国から1万8千人が高島市に訪れました。



2014.11

高島市のシンボル 「花」「木」「鳥」を選定

市制10周年を迎えるにあたり、「市の花(カキツバタ)」、「市の木(サクラ)」、「市の鳥(ヒバリ)」を高島市のシンボルに選定しました。



風土・自然・生態系に
ゆかりのあるシンボルを選定。

高島市制施行20周年

ハタチの成長記録

20年の歳月の中で、高島市がどのようなことに取り組み、どのように成長してきたのかをトピック形式でご紹介。どれも次の10年・20年で大きく飛躍するための、大切な出来事です。

中央分水嶺を縦走する 全長80kmのロングトレイルが誕生。



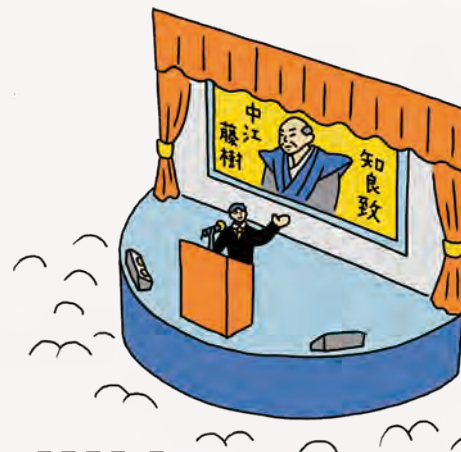
2007.10

全国トレイルサミットin高島2007を開催

マキノ高原を主会場に全国トレイルサミットin高島2007が開催され、全国各地からトレイルづくりに取り組んでいる方やトレッキング愛好家など約500人が参加し、高島トレイルの誕生を祝いました。



先生の教えを
広く伝える生誕祭。



2008.3

中江藤樹生誕400年祭が 約7か月間にわたり開催

近江聖人とたたえられた中江藤樹先生の生誕400年祭を約7か月にわたり開催。各種団体によるフォーラムやコンサートなどの多彩なプログラムで先生の功績をたたえました。



2005年～2014年の主な出来事



新たなスタートにふさわしい
元日の開市式。

2005.1

マキノ町・今津町・朽木村・安曇川町・高島町・新旭町 5町1村が合併し、高島市が誕生

2005年1月1日に高島市が誕生。ここから新しい歴史がスタートしました。



野菜やお菓子、
工芸品も揃う
人とモノの交流拠点。



2006.6

道の駅「藤樹の里あどがわ」開設

伝統工芸品の扇子がデザインされた屋根が特徴的な道の駅「藤樹の里あどがわ」が開設。地元のさまざまな特産品が人気を集めています。



2015(平成27)年～2024(令和6)年

2015(平成27)年

- 1月 「大溝の水辺景観」が国の重要文化的景観に選定
- 3月 「旧今津郵便局」が国の有形文化財に登録
- 7月 「思子淵神社本殿・思子淵神社蔵王権現社・思子淵神社熊野社」が国の重要文化財(建造物)に指定
- 10月 「中央分水嶺高島トレイル」が「森の道100選」に認定

2016(平成28)年

- 10月 2016高島ロングライド100を開催

2017(平成29)年

- 3月 第2次高島市総合計画を策定

2018(平成30)年

- 4月 高島市民病院に地域医療支援センターを設置
- 10月 市役所本庁舎新館が完成

2019(平成31/令和元)年

- 4月 マキノビックランドで「並木カフェ メタセコイア」がオープン
- 10月 保育料完全無償化がスタート

2020(令和2)年

- 7月 高島市児童発達支援センター「エール」を開所
- 7月 道路異常等通報システムの運用を開始

2021(令和3)年

- 6月 第72回全国植樹祭1年前記念イベント「緑のしずく祭」を開催
- 10月 高島市在宅育児支援事業がスタート

2022(令和4)年

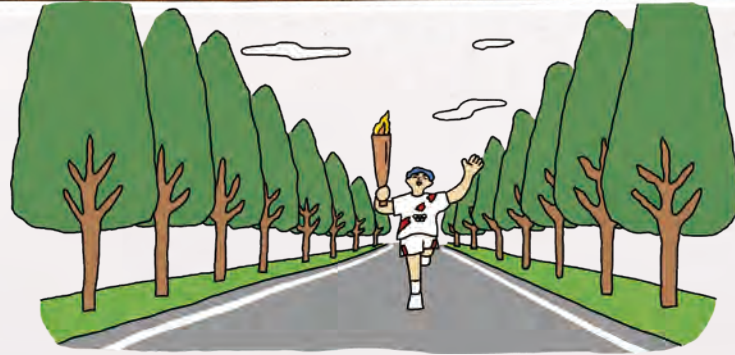
- 3月 畑の棚田、鶴川の棚田が「つなぐ棚田遺産」に認定
- 9月 TOYOTA GAZOO Racing PARK in ラリーチャレンジびわ湖 高島を開催

2023(令和5)年

- 1月 高島市の人口(社会増減)が合併以来、初の転入超過
- 11月 高島市制20周年記念事業のキャッチフレーズ・ロゴマークが決定

2024(令和6)年

- 5月 高島市制20周年記念NHK「テレビーも!」公開収録を開催
- 7月 JR近江今津駅リニューアル事業が完了
- 7月 JR湖西線開通50周年記念事業を開催
- 10月 高島市制20周年記念式典を開催



2021.5

東京2020オリンピック聖火リレー実施

日本全国を巡った東京2020オリンピックの聖火リレー。滋賀県は高島市からスタートし、7人のランナーがメタセコイア並木を走り抜けました。



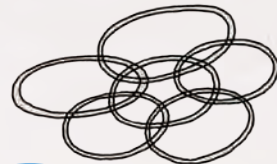
名所を走る聖火リレーにメタセコイア並木が選出。

大空に、桜の花びらなどを描くブルーインパルスの飛行に歓声!

2022.8

自衛隊フェスタ50・70 in 滋賀高島

陸上自衛隊今津駐屯地創立70周年および航空自衛隊養護野分屯基地創立50周年を記念する合同記念行事を開催。高島の天空を舞台にしたブルーインパルスの展示飛行に大勢の人が酔いしれました。



2022.10

第27回全国棚田(千枚田)サミットを開催

「棚田をつなぐ人のかけ橋」を大会テーマに第27回全国棚田(千枚田)サミットを開催。日本の原風景を生かし、棚田のもつ価値などを未来へつなぐために多くの人が集まりました。



日本の誇り、棚田を未来につなぐ知恵の交流。



2024.1

こども若者応援ベース「みらくる」開設

子どもや若者に関する相談機能を集約したこども若者応援ベース「みらくる」を開設。妊娠期から育児、不登校、さらには結婚などの相談に対応します。



一人ひとりが自分らしく生きる力を育む相談スポット。

災害拠点機能や利便性を向上した地球にやさしい本庁舎、誕生。



2019.5

市役所本庁舎 グランドオープン

市役所本庁舎整備工事が完了し、教育委員会などこれまで分散していた市役所機能を集約したほか、来庁者の利便性の向上や災害対策本部機能の一元化を行い、グランドオープンを迎えました。



妊娠・出産・子育てに必要な情報をスマホで簡単管理。

2020.11

子育て応援アプリ「はぐっとナビたかしま」の配信開始

子どもの成長記録や地域の子育て情報を簡単に入手できる子育て応援アプリ「はぐっとナビたかしま」の配信を開始。2024年6月末時点で1,070人にダウンロードされ、多くの皆さんに活用いただいています。



2015年～2024年の主な出来事



ゴールのないマラソン!? 国内外の約2,000名が夜の高島を力走。

2015.5

世界同時開催のランニングイベント Wings for Life World Runが日本初開催

世界同時マラソン「Wings for Life World Run」が日本初開催。キャッチャーカーと呼ばれる追跡車に追い抜かれたら失格となるユニークなマラソンで、海外や国内から1,983人が参加し、夜の高島を力走しました。



100年にわたって歌い継がれる琵琶湖の名曲。



2017.6

琵琶湖周航の歌誕生100周年記念式典を開催

作詞 小口太郎、原曲 吉田千秋によって1917年に今津の宿で誕生した「琵琶湖周航の歌」。100周年を記念する式典や合唱コンクールが開催されました。



滋賀県内比較

市の面積は県内No.1!!
果樹などの樹園地や林野面積
が上位で自然の豊かさがここにも!



【2024(令和6)年調査】
出典:国土地理院



【2020(令和2)年調査】
出典:農林業センサス



【2022(令和4)年調査】
出典:滋賀県森林・林業統計要覧

県内No.3は
漁業就業人口や畑面積
米作付面積・収穫量など

産業別就業者数

出典:2020(令和2)年 国勢調査

製造業への
就業者がトップ!
暮らしに密接に関わる
業種が上位に。



4,891人

製造業



3,450人

医療・福祉



3,318人

卸売・小売業



1,997人

建設業



1,579人

公務

(他に分類されるものを除く)

目的別観光者数

出典:2022(令和4)年 滋賀県観光入込客統計調査



公園・テーマパーク等

688,207人



歴史

216,596人



水泳場・マリーナ

149,189人

自然

124,898人

都市型観光

58,175人

温泉・健康

29,328人

資料館等

12,517人

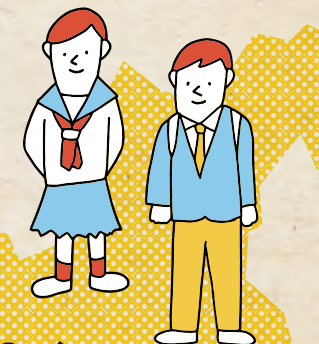
「観光」は高島市の
重要な産業。
豊富な観光資源を
活用し、PR活動にも
さらに注力!



TAKASHIMA
ハタチの成長記録

データ編

高島市内の高校に通う
高校生アンケートでは、
67.5%が将来的に
高島市に住む意向。

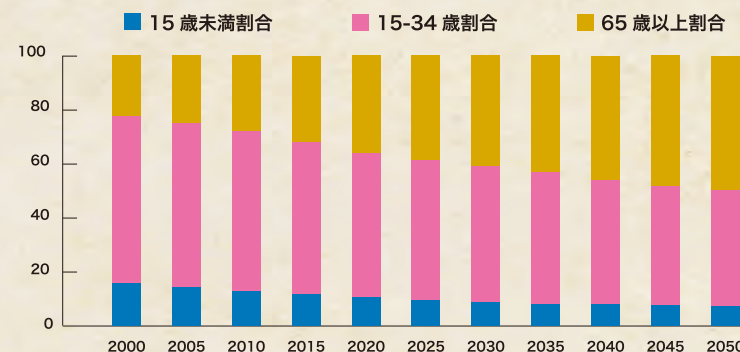


67.5%

日本の地方部で顕著に進む少子高齢化、高島市も例外ではありません。2050年には65歳以上が総人口の半数を占めると予測される中、すべての年代が健やかに暮らし、自分らしさを生かせるまちづくりがとて重要になります。観光客をはじめ、市外の人とのさまざまな関係を生み出しながら、高島市ならではの未来を切り開いていきます。

高島市の人口推計(3区分)

出典:2023(令和5)年12月公表値 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口」



2050年には65歳以上が半数と
予測。若年世代に定住してもらう
ことが望まれます。



転入・転出の社会増減

出典:2022(令和4)年 住民記録異動事由別集計表

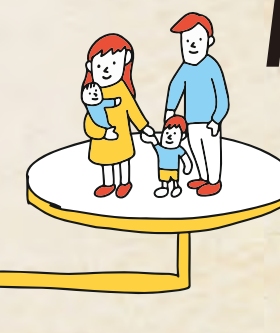
転出者数

1,320人



転入者数

1,323人



転入者数は令和4年度に
転出者を初めて上回る
結果になりました。

関係人口を増やす目標に向けて
高島市は新たなスタートへ。